平成２９年度　第３回　古賀市健康づくり推進協議会
意見要旨

日　時：平成２９年１１月２９日（水）　１９：００～２１：００
場　所：サンコスモ古賀２階　２０６会議室

＜出席者＞

（委員長）	堤　啓	粕屋医師会
（副委員長）	福岡　綱二郎	粕屋歯科医師会
	松尾　和枝	福岡女学院看護大学　教授
	江口　泰正	産業医科大学　産業保健学部　人間情報科学　准教授
	有田　尚彦	古賀市内高等学校（古賀竟成館高等学校　校長）
	藤原　美喜子	古賀市保育所（園）連盟（鹿部保育所　所長）
	井手野　りつ子	古賀市食生活改善推進会　会長
	大森　睦子	古賀市スポーツ推進委員　代表
	國嵜　和子	古賀市健康づくり推進員　リーダー
	田中　雅文	クロスパル古賀　支配人（コナミスポーツ&ライフ）
	三好　惠美子	中村学園大学栄養科学部栄養科学科　非常勤講師
	平野　昌数	古賀市小中学校校長会（花見小学校　校長）

＜欠席者＞

岡林　寛	独立行政法人国立病院機構福岡東医療センター　統括診療部長
藤井　博文	古賀市商工会（㈱増田桐箱店）

＜事務局＞

古賀市保健福祉部　予防健診課

＜配布資料＞

・次第
・委員名簿
・健康チャレンジ 10 か条おひろめミーティングまとめ（資料１）
・健康チャレンジ 10 か条おひろめミーティング意見まとめ（資料２）
・健康チャレンジ 10 か条（案）（資料３）
・第二次健康増進計画、食育推進計画の体系（資料４）
・食育推進計画展開図（資料５）
・ヘルスアップぷらん～古賀市健康増進計画（第二次）・食育推進計画～（案）（別冊）

◇議事要旨

１．保健福祉部長あいさつ

○青谷部長

２．健康チャレンジ 10 か条おひろめミーティングについて（報告）

○事務局

（資料１～３について説明した。）

前回意見のあった「いきがい」については、第４章の説明の中で取り入れることとする。また、子供にもわかりやすいように、というご指摘についても、説明の中でわかわかりやすい表現を用いることとする。

○委員

資料１の「平均値」とは？

○事務局

ミーティング参加者に、フレーズが伝わると思うか３段階で評価してもらい、その平均値となっている。

○委員

「筋肉・骨量アップについて、平均点が１．９と低いのはなせか？

○事務局

「フレイル」という言葉がわかりにくかったため、評価が低かったものと考えられる。

３．第二次健康増進計画・食育推進計画進捗状況について

○事務局

（資料４～５及び別冊について説明した。）

今回はヘルスアップぷらんの第３章から第７章についてご協議頂きたい。第１章から第２章は後日お示しする。

（計画体系について）

○委員

資料４の重点目標について、アルコール摂取量が「男性４０ｇ以上」となっているが、減らすのだから「以上」ではなく「以下」の間違いではないか。

○事務局

その通りである。資料は訂正する。

○委員

アルコール摂取量について、男性と女性の目標値が違うのはなぜか。

○委員

体脂肪率が違うためである。脂肪が多い方（女性）がアルコールの吸収がよいため、特に気を付ける必要がある。

○委員

重点目標の減塩について、「よく噛む」ということを入れた方がいいのではないか。

○事務局

取り入れることとする。

○委員
「だし」といっても、いろいろあるが、事務局としてはどのようなものを想定しているのか。
○事務局
理想はいりこや昆布でとるだしであるが、取り組みやすいということから、粉だしも含めたものと考えている。ただ、なるべく自分でだしをとってもらえるよう、簡単なだしの取り方等を若い世代を中心に啓発していく。
○委員
近年「ヘルスリテラシー」という言葉が聞かれているため、安易にサプリなどに頼ることがないよう、よく考えることが必要だと思うが、どこかに取り入れられないか。
○事務局
「まもる」の項目などで同様なことを考えていけるのではないかと考えている。
（第３章について）
○委員
目標を達成するにあたっては、計画をいかに実行に移すかだと思う。そのためには、具体性が求められると思うが、どのように考えているのか。現時点では「担当課」という課レベルでしか書かれていない。
○事務局
現在は「担当課」というような表現になっているが、果たしてそれだけでいいのか、行政全体や民間なども巻き込むことが考えられると思う。
○委員
市民レベルのワークショップでは、かなり具体性があったと感じているので、個人を越えて組織を巻き込むなど今後より一層の検討を求める。
○委員
計画において、あまりに緻密だとそれがかえって足かせになってしまうことがあるので、留意してもらいたい。
○委員
当事者意識を持たせるため、どの程度関わってもらいたいのか、参画を促すような工夫が欲しい。
○委員
現時点の計画のおける「事業と取組内容」について、健康分野のみしかないように感じる。健康づくりは様々な分野が関わってくると思うので、例えば農業分野など様々な人が関わるようするといいのではないか。
○事務局
ご指摘のとおりであり、庁内でも検討は行っている。盛り込んでいきたいと考えている。
（第４章について）
○委員
数年前から各種検診が推進されているが、来院するのは日常的に受診している人ばかりで、本当に必要な人（定期的な健（検）診を受けていない人）が来ているとは感じられない。
○委員
目標を達成するために、インセンティブを設けることも一考かと思う。
○委員
「たのしむ」のめざす姿と指標の繋がりが不明である。現在示されている指標で「たのしむ」を評価できるのだろうかと思う。

○事務局
　元々この「たのしむ」は、「心とからだの健康づくり」から始まったもので、国の動きなどもありこのような指標になっている。ご指摘の通り、指標については再考が必要と思う。
○委員
　例えば、指標に「自殺者数を減らす」があるが、これを他の指標と同列に考えていいものなのか。あまりにかけ離れていると感じる。
○事務局
　自殺者対策は必須である、と国からの指導があり、安易に入れてしまったところがある。ご指摘のとおりだと思うので、「たのしむ」の項目からは削除したい。
○委員
　「まもる」の項目に入れるのもいいだろうが、表現は変えるべきと思う。
○委員
　自殺の原因は多岐に亘ると思うので、どの項目というのはないと考える。例えば、男性であれば金銭問題が多いと聞くので、金銭問題は健康増進とは関係が薄い。
○委員
　例えばストレスチェックなど、企業と協力してもいいのではないか。
○事務局
　具体的な対策は別な計画に載せるとして、総論的なものにするなど検討する。
○委員
　「たのしむ」の項目であるから、指標はポジティブな表現にしてはどうか。
○委員
　「よく噛む」が「まもる」の項目に入っているが、「たべる」の項目の方がすんなりすると思う。「よく噛んで食べる」である。特に子どものときから習慣付けることが重要であるから、３０回噛むなど具体的な表現も用いてもらいたい。
○事務局
　「たべる」の項目に取り入れることする。
○委員
　最近の食べ物は柔らかいので、あえて「硬い物を食べよう」というのもいいかもしれない。
（第５章・第６章について）
○委員
　健康チャレンジ 10 か条そのものの実行状況に関する指標があっても、いいのではないだろうか。10 か条を実行している人と、していない人の比較なども必要ではないか。全体としてめざす姿と指標が一致していないと感じる。
○委員
　10 か条の周知方法に関する記述はないのか。
○事務局
　来年度から、積極的な人や団体とポスターやチェックシートなどを作成しようと考えている。
○委員
　企業などでも様々な取り組みを行っているところが増えていると聞く。そのようなところに行政として支援するのも、10 か条を広めるのにいいのではないだろうか。

○委員

第５章の「めざす姿」と「一人ひとりの取組」がリンクしていないと思う。その影響で、指標とも不一致が発生しているのではないだろうか。

○委員

「健康経営」という言葉は、まだ馴染みが薄いと思うので、説明が必要と考える。なお、「健康経営」は登録商標である。

○事務局

「健康経営」については、取り入れたいと考えている。

○委員

ライフステージに特化しているこの項目において、学校で行う「フッ化物洗口」を入れてもらいたい。両親が十分に手をかけている子どもには問題ないが、手をかけてもらっていない子どもを救う上では非常に有効である。教育委員会と調整し、ぜひ進めて頂きたい。

○委員

学校教育と連携することは大きなテーマだと思う。

○委員

指標が第４章と同じのものが多いが、これではもったいないと思う。ライフステージに特化したという視点を入れて、他の指標があってもいいのではないか。

○委員

「市民一人ひとりの取組」に 10 か条に当てはまらない「その他」のような項目があってもいいのではないか。それを市民で考えてもらうのも、新たな展開になって面白いと思う。

（第７章について）

○委員

「地域」の単位があいまいであると、誰が主体なのかわからなくなってしまう。共通認識を持つためには、定義が必要だと思われる。

○事務局

地域によって人材に格差があり、各種活動にも格差が生まれている。そのような中で人材育成など行って、再構築しようと考えている。

○委員

その再構築を行うにも、地域の人が住む場所は変わらないので、高齢者ばかりのところは結局高齢者ばかりであり、難しいのではないか。それであれば、もう少し大きな単位で考えるなど、考え方を示すべきと考える。古賀市として考えるべきである。

○委員

保健福祉分野だけの問題ではないので、市として検討する必要がある。

ＷＨＯの「ヘルスプロモーション」は、健康の先に幸福があるという考えになっているので、考えの基本になるのではないか。

○委員

それぞれの行政区が責任を持って課題解決に向けた方策を考えていくべきだと考えている。

４．その他

○事務局

本日頂いた意見を計画に反映する。その修正版と第１章と第２章について、１２月末を目途に皆さんに展開する。なお、次回協議会は２月末の予定である。